

科目名			高年齢労働者社会医学演習		
科目責任者			財津 将嘉 (高年齢労働者産業保健研究センター 教授)		
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位	時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>抄読会参加、研究会での発表、議論等を通じて、高年齢労働者に係る産業保健施策の目的、諸概念、活動の現状や広がり、課題を理解し、それを実務に活かせる応用力、疫学研究に必要な能力及び科学者としてのアカデミックな能力を高める。同時に、リーダーとして、科学的根拠と現場の顕在的・潜在的ニーズ及び対応を踏まえた高年齢労働者への必要な対策を計画し、実践する力を身につける。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高年齢労働者に係る産業保健施策の歴史を知り、それをもとにその現状と課題を論じることができる。 2) 高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況について議論ができる。 3) 高年齢労働者に係る労働災害発生状況や労災認定の現状について説明できる。 4) 高年齢労働者に係る産業保健を含めた労働災害防止対策(国の制度)について概説できる。 5) 高年齢労働者の関連領域(学問)について、概説できる。 6) 職場の現状を踏まえた高年齢労働者への必要な対策に関する計画立案について議論できる。 7) 疫学研究のための研究デザイン、分析、解釈の原則および手法(基礎編その1)を説明できる。 8) 疫学研究のための研究デザイン、分析、解釈の原則および手法(基礎編その2)を説明できる。 9) 疫学研究のための研究デザイン、分析、解釈の原則および手法(基礎編その3)を説明できる。 10) 疫学研究のための研究デザイン、分析、解釈の原則および手法(基礎編その4)を説明できる。 11) 疫学研究のための研究デザイン、分析、解釈の原則および手法(基礎編その5)を説明できる。 12) 疫学研究のための研究デザイン、分析、解釈の原則および手法(基礎編その6)を説明できる。 					
● 評価方法		討議への参加度50%、発表内容と課題レポート50%で総合評価する。			
● 参考文献		「高齢社会白書」(内閣府)、「イラストで見る 高年齢労働者の安全対策 エイジフレンドリーな職場のために」(労働調査会)、「Modern Epidemiology, 4th ed.」(Wolters Kluwer)			

● 授業内容

回	項目	担当教員
奇数回	上記の目標に沿って、各主題につき、代表的な論文、知見を取り上げ、解説や議論を通じて、理解を深めさせる。	財津
偶数回	疫学研究のための研究デザイン、分析、解釈の原則および手法について、事例を使って、系統的、実践的な指導を行う。	財津